

令和元(2019)年度自然保護委員総会 第43回山岳自然保護の集い 宮城県 石巻市「金華山」大会 各都道県岳連(協会)の報告 概要

北海道 増子麗子委員長



北海道増毛町で指導員のつどいを実施した。道路がなく船で往来していたが場所に作った道路が廃道状態になっていたものを地元で復元した場所で研修。年一回道内地域の活動団体を回って実施している。

岩手 近藤修三 自然保護 担当役員

岩手市からの委託で岩手山八合目小屋の管理を6～10月にかけて実施。地形や植物等山の自然の理解を深めてもらう活動を継続。新規活動として「岩手県の花と木」(仮称)の編集に取り組んでいる。



宮城 村上美智子 副会長



金華山のシカが神の使いと言われているが、歴史的には伊達正宗がシカ狩りを行ったり、戦後GHQが狩を行ったりした記録もある。明日は金華山での登山を楽しんで頂きたい。この地では「宝島プロジェクト」を運営するなどして、地元支援を行っている。

茨城 中沢隆一 委員長 (資料編P10～12)

例年と同じ様な報告だが、茨城の山は四季を通じて楽しめるので是非来県して頂きたい。今年は国体開催があり特別忙しかったが、出前講座を開催。自然保護委員会は「頭はない、手はない、金もない」だが工夫してやっている。



栃木 速水恵子 副委員長



大きな行事は三つ。①日光、那須等の清掃登山やクリーンキャンペーン ②栃木百名山登山は8年目になる。また、秋～冬陽だまりハイクを計中 ③栃木岳連ユニフォームの長そでを作成(会場で披露)

群馬 三田治宣 委員長 (資料編P13～16)

今年は資料に写真を添付した。資料記載の特記としては、春のクリーン作戦を県の依頼で赤城山にて実施、上州武尊山トレラン大会では役員派遣など。一年の締めくくりは宿泊研修。



埼玉 増田修 委員長 (資料編P17～18)



自然保護総会の講演会にJMSC A自然保護指導員研修会で講師を務めた徳丸久衛氏を招き「登山道法構想について」講演会を実施。クリーンキャンペーンでは登山口までのアクセスでゴミが多く、マナー改善が望まれる。ユネスコエコパークに甲武信ヶ岳登録と山の日イベントを兼ねて自然観察会を実施。

千葉 濱田伸 委員長 (資料編P19)

自然観察ハイク3ヶ所で5回実施。南房総国定公園内鶴原理想郷では海と山の植物が観察でき、どう違うかを見てもらった。今年は台風15号と19号の被害に遭った。特に15号では鋸山で倒木と一緒に土が流出(凝灰岩で土壌が薄い)。一ヵ月後調査、なんとか頂上まで登山可能、植物再生が心配。



東京 岡田博行 委員長 (資料編P20～21)



自然保護委員会は28名の専門委員で啓もう、環境保全、環境調査委、研修講習等の活動を実施。啓もうでは高尾山のクリーンキャンペーンを100名規模で実施。カタクリパトロールで保護ロープ復活の予定だったが積雪で実施できず。奥多摩小屋は3月で閉鎖、その後の周辺状況を定期的に確認中。水場はかなり荒れてきた。近隣の小屋、テント場は混雑している。

神奈川 松隈豊 理事長兼委員長 (資料編P22～23)

活動内容は書類の通り、主要な活動は県などの公的機関の公募に申請し補助を得て実施。機材購入・傷害保険等に充てている。例に、森林づくりボランティア活動では補助金でチェーンソー等の大物機材を購入。一方で煩雑な事務手続きや行政機関等の調整の負担も大きいのが課題。



山梨 磯野澄也 副会長兼委員長 (資料別刷り)



山岳レンジャー活動では高山植物の知識向上と保護を重点。5～9月の活動期には延べ400名参加。提案 トイレのチップ制を料金制に改めることを提案したい。

新潟 伊藤直 委員長 (資料編P 24～25)

自然保護研修会を新発田市・妙高市と2回で実施した。

新潟県は北から南まで約300kmに渡り山々が連なっている。巻機山・飯豊連峰で保全活動に参加協力、ライチョウ生息環境調査に火打山を中心に活動した。



岡山 濱本幸弘 委員長 (資料編P 31)

中国5県の合同自然保護集会(山口県主管)へ参加。独自活動として、山の自然保護について研修及び自然観察会、本宮高倉山登山道の刈り込みなど登山道整備と清掃を実施



長野 小林貞幸 委員長



長野は委員会活動をしていない。ボランティア活動としてライチョウサポーターズやレンジャー制度あり協力。ライチョウ 木曾駒ヶ岳でライチョウのひなの孵化にこぎつけた一連の報道を紹介

広島 松井秀樹 委員 (資料編P 32)



「自然環境保全」として取り組んでいる。雲月山山焼き、中国地方5県による「中国ブロック」自然保護研修会、第18回ひろしま「山の日」県民の集い、水質検査、「山のお弁当」を実施

石川 米田正明 委員長

高尾山で自然観察会と保護活動を実施した。クマ、サル、イノシシが里へどんどん下りてくる。クマの対応に苦慮。



山口 米光伸行 副委員長

中国3県の会議兼観察会を蓋井(ふたおい)島にて担当実施した。ヤブツバキを見て欲しい。登山道の整備をした。



愛知 安藤武典 会長



自然観察会は毎年沢山参加あり。海上(かいしよ)の森でキノコ観察会を実施した。JMCSA主催で子供を集めて沢のぼりを実施した。(ライフジャケット、ヘルメット貸出)、鈴鹿山脈での遭難の3分の2は愛知県者である。

岐阜 門屋峰雄 委員長



夜叉ヶ池にゲンゴロウ(レッドリストの絶滅危惧種の指定)が生息している。調査報告を受け指導を行った。(福井県と合同で活動)、ボランティアについて注意したことをSNSで拡散され、ボランティアの人数が激減している。自然の写真を販売し、活動資金に充てている。

三重 橋川弘子 副委員長 (資料編P 26)

鈴鹿山系 朝明溪谷で探鳥山行を実施した。鈴鹿山系の麓にメガソーラーが設置されているが森林伐採に因る土砂崩れが起きている。



欠席団体の文書報告概要 (総会に欠席であったが、活動状況の報告書を受けたもの)

兵庫

「自然と歴史山歩」と称し、六甲山系数か所のコースを季節ごとに設定し、自然保護だけでなく読図・登山技術の普及活動を行っている。六甲山系グリーンベルト整備事業(国交省・兵庫県と協働事業に森の世話人として参画し、「兵庫県山岳の森」と称し活動。

鳥取

大山の登山道再整備を主軸に植生保護など活動を展開、秋には自然保護憲章発祥の地「鏡ヶ成湿原」の湿原再生事業にも取り組むという。縦走路の崩壊箇所を椰子マットの菰伏せの効果を確認、順次拡大適用を図る予定。